

## コード進行（強進行編）

コード進行は、曲で言うと主に「背景」を司る役目を果たします。「明るく元気な感じ」や「暗く悲痛な感じ」、「恐ろしい感じ」、「不思議な感じ」・・・など様々な印象を率直に表現することができます！

ここでは、多くの曲に用いられる「強進行」を書いていきます。

### コードって何？

まず、そもそもコードとは何でしょう。

「コード」とは音が重なったもので「和音」とも言われます。「和音」は、その音の数によって「三和音」「四和音」・・・と表しますが、一般的に使われる和音は3度音程の音を重ねた「三和音」や「四和音」を使います。

### 音階と和音

音階と和音の間には、深い関わりがあります。意図した印象の曲調に合わせるには、双方にある音をその局所で使うことである程度纏まりのある曲になります。（これを無視して創ると統制のない不安定な曲ができることがあります）

### 音階上に出来る和音

これらのことを踏まえて、長音階から和音を作っていきます！（この方法で得られた和音のことを「ダイアトニックコード」と言います）

CM7 Dm7 Em7 F#m7 G7 Am7 Bm7 b5

I M7 II m7 III m7 IV M7 V M7 VI m7 VII m7-5

判りやすいよう、コードごとに色分けしてあります。また、下部のローマ数字は音程の度数で「ディグリーネーム」と呼ばれる表記方法です。コード進行では移調しても分かるよう、ディグリーネームで表されるのが一般的です。四和音で書かれている理由は、三和音への応用が利きやすくなるためです。

### 和音の機能

さて、いよいよコード進行の話に入るわけですが、先ほどのダイアトニックコードにはそれぞれ以下の機能（役割）を持っています。

- ・ トニック(T)  
コードの調性を決める主演です。  
この中でIはどのコードにも進むことが出来て、最終的にはV7 Iで終わります！

